

株式会社サヌキ

毎週木曜の午後5時半から1時間、社長と6人の従業員がミーティングを行い、業務の効率化と社内の活性化に成果を挙げている企業がある。

1936年創業の株式会社サヌキ。作業服と安全靴の販売会社だ。

廃業寸前だった会社を3代目社長が立て直し、ネット販売で売り上げを拡大。

経営にスピードが求められる中、社員全員が顔をそろえる“週1ミーティング”が現在進行形の課題を速やかに改善する場になっている。

1時間限定で全員集合

本社ビル5階のリラックスルーム。普段は社員が昼食や休憩を取るこの部屋が木曜夕方限定で会議室に変わる。サヌキが週に1度、全社員で行うミーティング。会社が業績を伸ばす中、業務の効率化を図るために昨年4月に導入した取り組みだ。

この日の議題は、商品の返品・交換について記した説明書の見直し。「お客さまにとって一番分かりやすい書き方は」「金額には「未満」より「以下」を使う方がいいのでは」。担当者が事前で作った資料を基に、部署や役職を超えて活発な意見が交わされる。

「トップダウンではなく、みんなで話し合って決めていこうというのが原点。小さな事から大きな事まで、改善すべき点を全員で議論することが大切です」と、尾藤唯之社長は話す。以前は全員が集まる機会も、仕事を進める上での細かいルールもなかったため、社員は困り事があってもそれぞれに悩んで解決するしかなかった。

「担当者が困っていても、別の視点から見ると意外に簡単に解決できる事もある。言いたいことを全部言って、みんなで考える場なのです」と尾藤社長。開始から終了まではタイマーで測ってきっちり1時間。時間を区切ることが中身の濃い話し合いにもつながっている。

課題解決がスピーディーに

ミーティングで社員が提案し、すぐに改善されたケースは幾つもある。例えば、ホームページに記していた電話受付時間。「担当者が席を外す昼休みは明記しておく方が親切では」というアイデアは即採用され、その日のうちにホームページの記述を修正した。こうしたスピーディーな改善をミーティングごとに積み重ねてきたのだ。

「もちろん何か月もかけて改善していく事案もある。それを共有する場でもあります」と尾藤社長。自由に意見を言い、悩みを相談できる場ができたことで社内のムードも明るくなったという。

導入当初はミーティングをする時間があるなら仕事をしたいという雰囲気も多少あった。しかし今では、この1時間がさまざまな場面で成果をもたらしていることをすべての社員が実感している。



本社ビル1階の高さばき庫。メーカーから仕入れた商品をここで整理し、出荷していく。

改善する

～“週1ミーティング”で業務を効率化～